

# 2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

2022年7月28日

**株式会社メイテック**

代表取締役社長 グループCEO  
國分 秀世

## 将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載した業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、既に公表している有価証券報告書等で記載した「事業等のリスク」に係る事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

IRに関するお問い合わせ

E-mail： [ir@meitec.com](mailto:ir@meitec.com)

Tel： 050-3033-0945

# 2023年3月期 第1四半期業績 グループ連結

- ✓ 売上高は13.6%増収⇒稼働人員数の増加と稼働率の向上を両立
- ✓ 営業利益は45.9%増益⇒労務費等原価と販管費の増加を売上高の増収で吸収

(百万円未満切捨て)	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2022年5月公表 2Q期初予想	予想 進捗率
売上高	25,196	28,632	+3,436	+13.6%	57,300	50.0%
売上原価	18,835	20,896	+2,060	+10.9%	42,000	
原価率	74.8%	73.0%	▲1.8%			
販売管理費	3,807	4,010	+203	+5.3%	8,500	
営業利益	2,552	3,725	+1,172	+45.9%	6,800	54.8%
営業利益率	10.1%	13.0%	+2.9%		11.9%	
経常利益	2,581	3,741	+1,159	+44.9%	6,800	55.0%
特別損益	0	0	—			
税金等調整前四半期純利益	2,581	3,740	+1,159	+44.9%		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,606	2,370	+763	+47.5%	4,500	52.7%
四半期純利益率	6.4%	8.3%	+1.9%			

3

# 2023年3月期 第1四半期業績 メイテック

- ✓ 売上高は10.6%増収⇒提案営業で受注獲得を強化し、稼働人員数の増加と稼働率の向上を両立
- ✓ 営業利益は33.4%増益⇒労務費等原価と販管費の増加を売上高の増収で吸収

(百万円未満切捨て)	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2022年5月公表 2Q期初予想	予想 進捗率
売上高	18,270	20,199	+1,929	+10.6%	40,000	50.5%
営業利益	2,230	2,974	+744	+33.4%	5,300	56.1%
営業利益率	12.2%	14.7%	+2.5%		13.3%	
経常利益	2,803	3,864	+1,061	+37.8%	6,200	62.3%
四半期純利益	1,938	2,732	+793	+40.9%	4,300	63.5%
稼働率(全体)	88.9%	93.5%	+4.6%		94.2%	
稼働時間<h/day>	8.43	8.35	▲0.08	▲0.9%	8.36	
エンジニア社員数<名>	7,655	7,868	+213	+2.8%		

4

# 2023年3月期 第1四半期業績 メイテックフィルダース

- ✓ 売上高は22.9%増収⇒稼働人員数の大幅増加と稼働率の向上を両立
- ✓ 営業利益は235.3%増益⇒労務費等原価と販管費の増加を売上高の増収で吸収

(百万円未満切捨て)	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2022年5月公表 2Q期初予想	予想 進捗率
売上高	5,881	7,228	+1,347	+22.9%	14,600	49.5%
営業利益	163	547	+384	+235.3%	950	57.6%
営業利益率	2.8%	7.6%	+4.8%		6.5%	
経常利益	163	547	+384	+235.3%	950	57.6%
四半期純利益	111	376	+265	+238.5%	650	57.8%
稼働率(全体)	80.4%	87.5%	+7.1%		90.2%	
稼働時間<h/day>	8.39	8.26	▲0.13	▲1.5%	8.34	
エンジニア社員数<名>	3,705	4,218	+513	+13.8%		

5

# 2023年3月期 第1四半期業績 各社別の概況

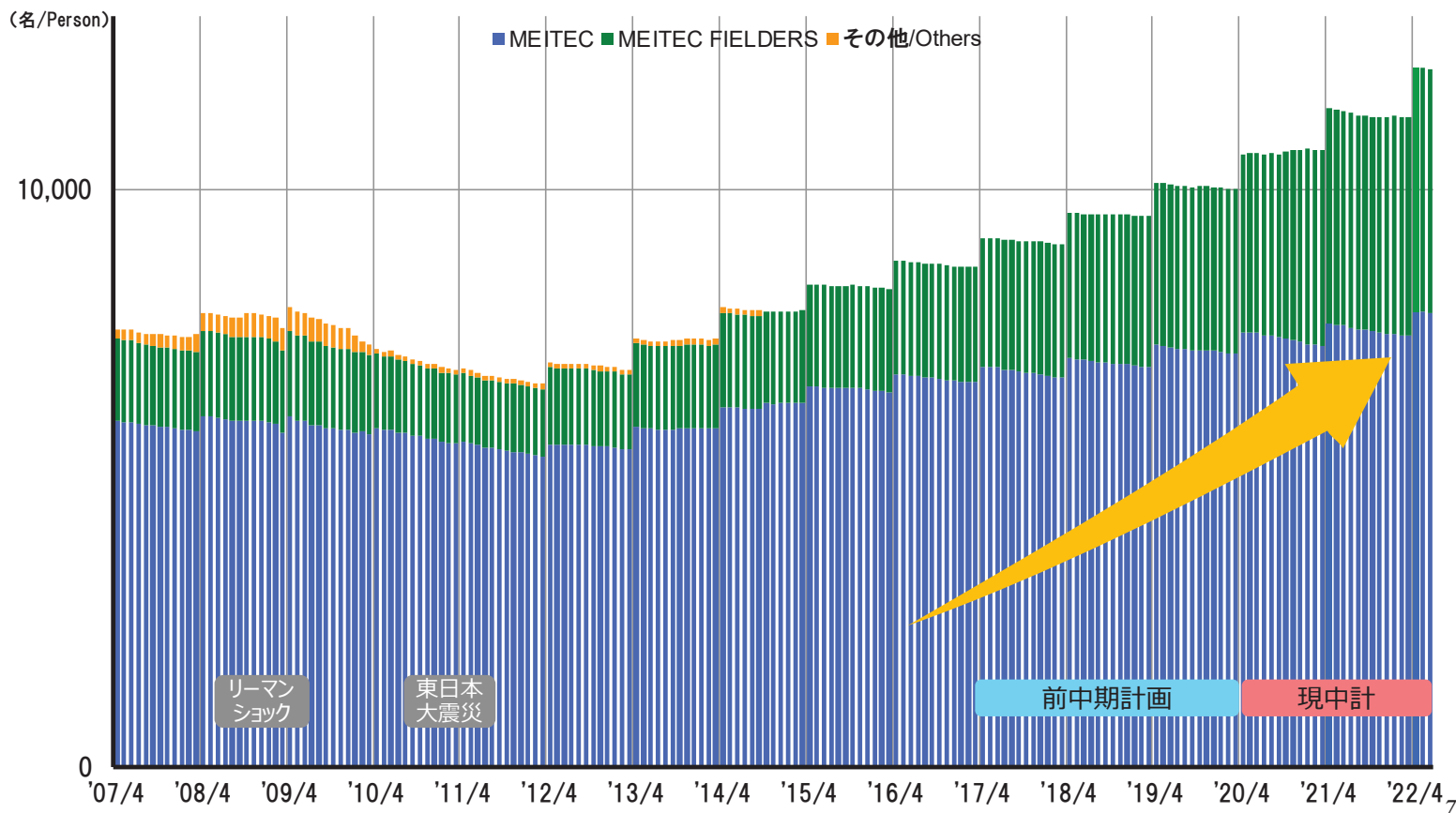
- ✓ エンジニア紹介事業は紹介決定数増加により増収増益

(百万円未満切捨て)	エンジニアリングソリューション事業				エンジニア 紹介事業
	メイテック	メイテック フィルダース	メイテック キャスト	メイテック EX	メイテック ネクスト
売上高	20,199	7,228	815	83	442
前期比 増減額	+1,929	+1,347	+70	+19	+62
前期比 増減率	+10.6%	+22.9%	+9.5%	+31.1%	+16.4%
営業利益	2,974	547	60	△2	157
前期比 増減額	+744	+384	▲1	▲5	+37
前期比 増減率	+33.4%	+235.3%	▲2.3%	—	+31.2%
経常利益	3,864	547	60	△2	157
四半期純利益	2,732	376	41	△2	108

6

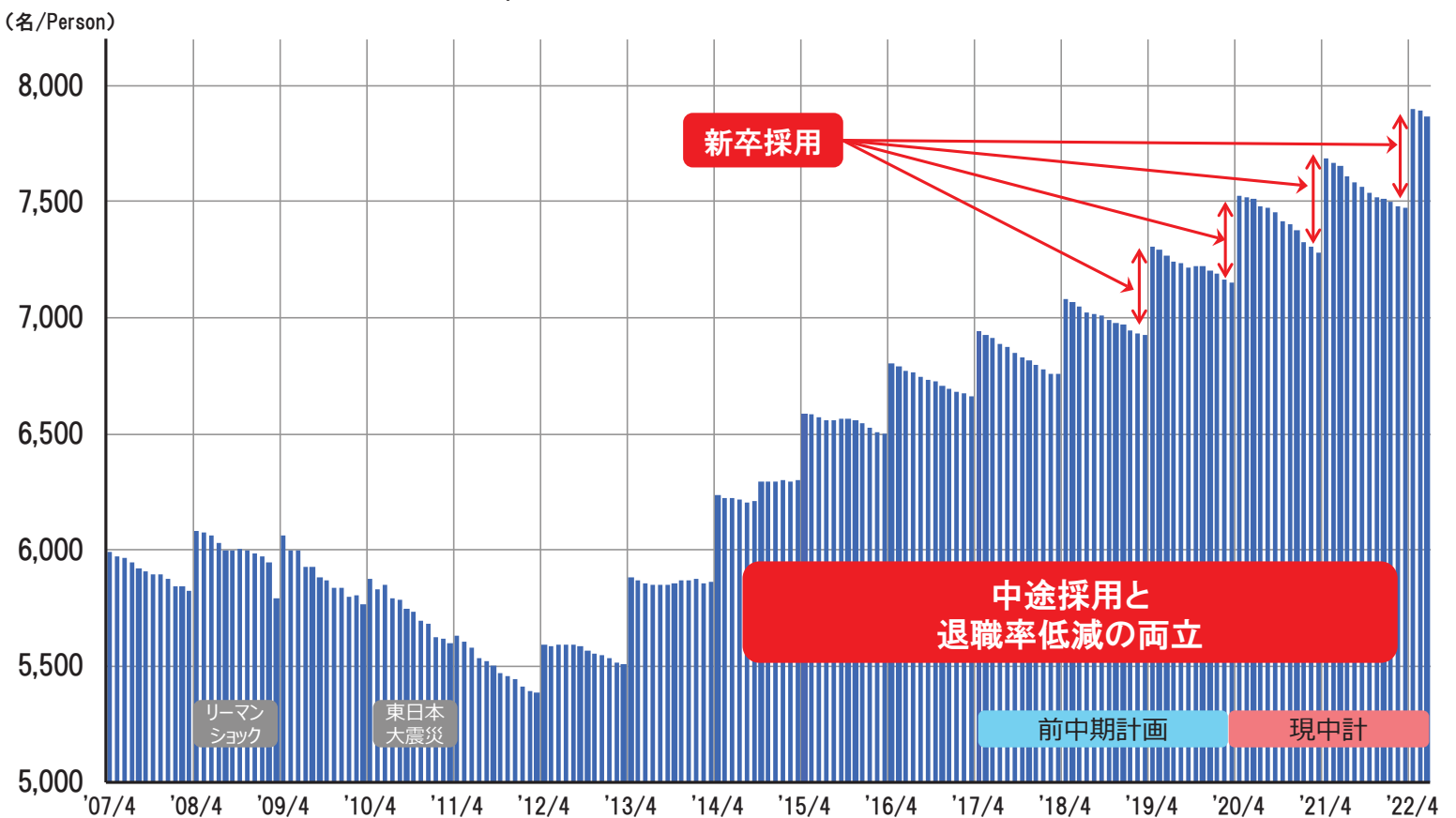
# エンジニア社員数 グループ連結

✓ 6月末のエンジニア社員数は12,086名（前年6月末比+726名、+6.4%）

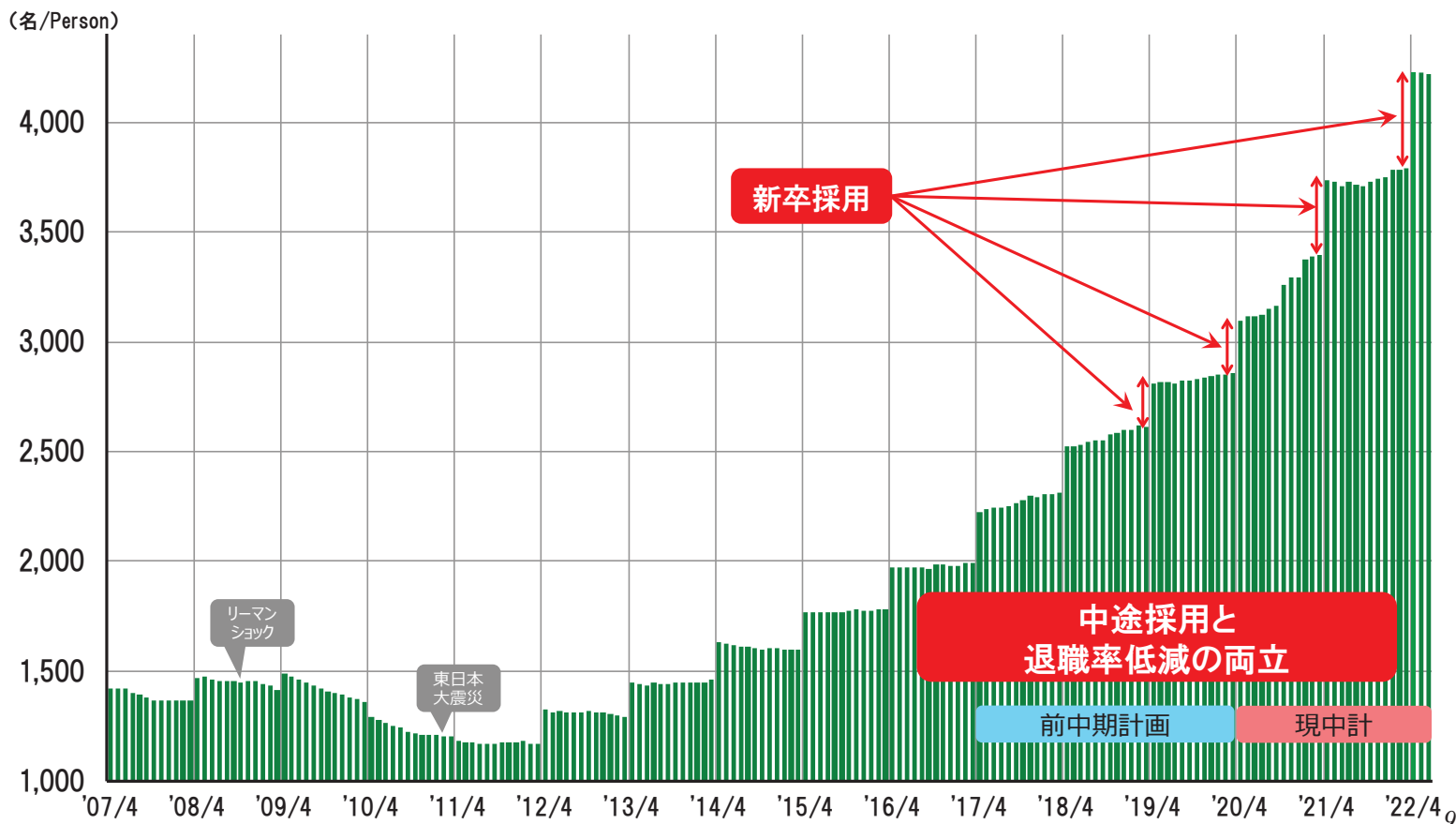


# エンジニア社員数 メイテック

✓ 6月末エンジニア社員数は7,868名（前年6月末比+213名、+2.8%）



✓ 6月末エンジニア社員数は4,218名（前年6月末比+513名、+13.8%）



## 2023年3月期の採用目標

通期説明会資料再掲

### 中途採用（2023年3月期）

- 即戦力技術者ニーズは、引き続きコロナ禍以前を上回り、採用環境は厳しい状況が継続
- ✓ 採用チャネルを拡大し、「生涯プロエンジニア」の働き方、キャリアアップに対する考え方を積極的に発信し、採用数確保を目指す
- ✓ 採用基準を保持しつつ、中長期の成長、発展を見据えた積極採用を推進

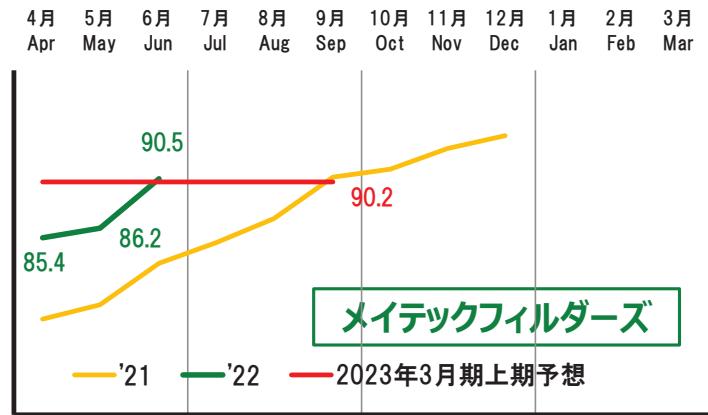
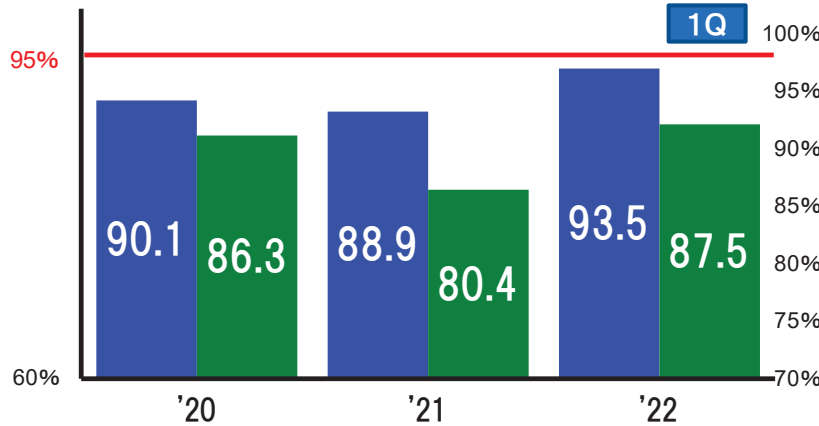
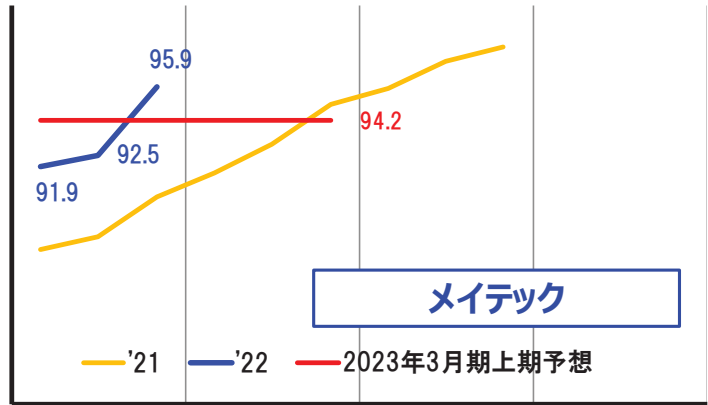
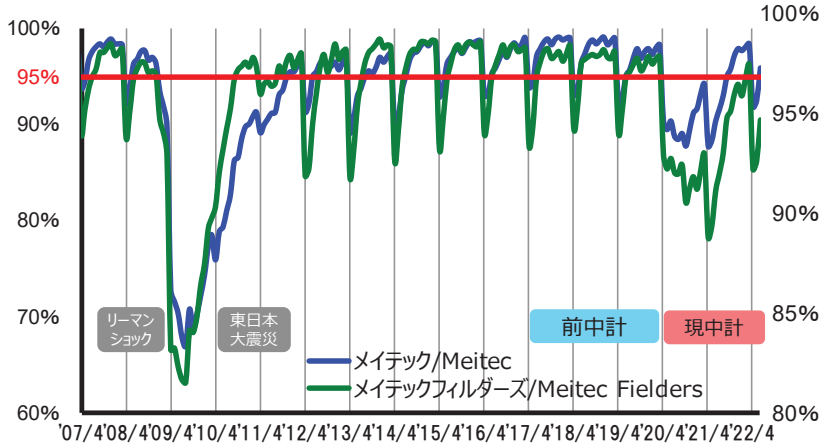
### 新卒採用（2023年4月入社）

- 近年の売り手市場継続の中、企業の採用活動が早期化しており、採用競争の激化が進む
- ✓ インターンシップ等を通じ、生涯プロエンジニアとしての『職業を軸にした働き方』を学生に訴求
- ✓ 学生の安全確保を第一にしつつ、学生志向（成長意欲など）を大切にされた採用活動を継続
- ※ 設計・開発部門で最先端技術や最新の製品開発に携わるソリューション提供を継続して実現していくため、採用基準は下げない

(名)	2023年3月期				2024年3月期	
	22年4月入社 新卒採用数 (実績)	中途採用数 <目標> 前期比		採用数合計 <目標> 前期比		23年4月入社 新卒採用数 <目標> 前期比
メイテック	474	280	+40	754	+52	500 +26
メイテック フィルダース	411	800	▲200	1,211	▲91	450 +39
合計	885	1,080	▲160	1,965	▲39	950 +65

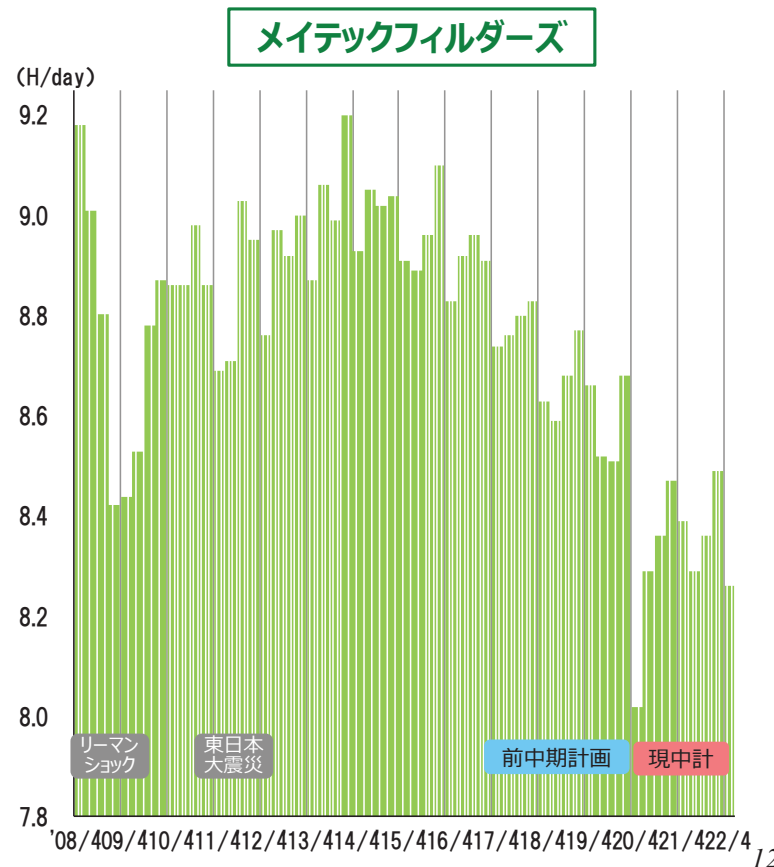
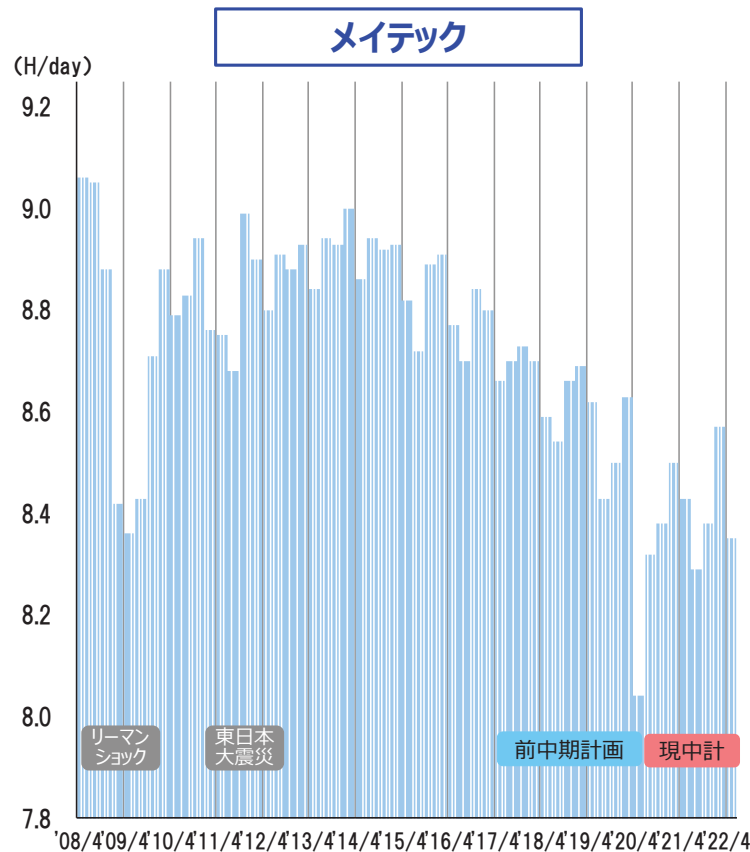
# 稼働率

✓ 稼働率は向上⇒新入社員（新卒・キャリア）および既存社員の配属が順調に推移



# 稼働時間

✓ 時間外労働の減少等により前年同期比で若干低下

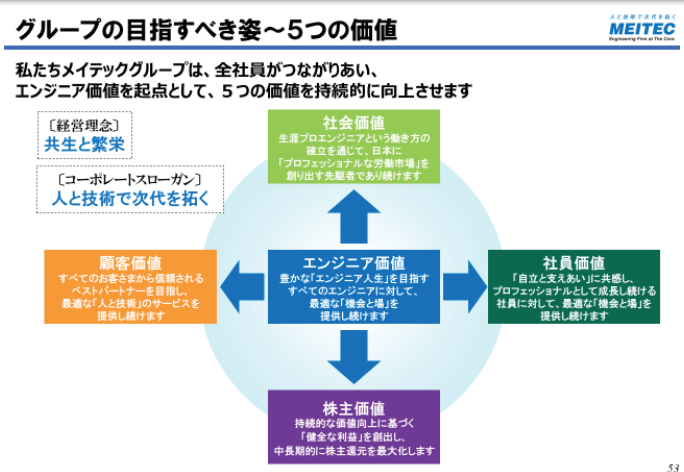




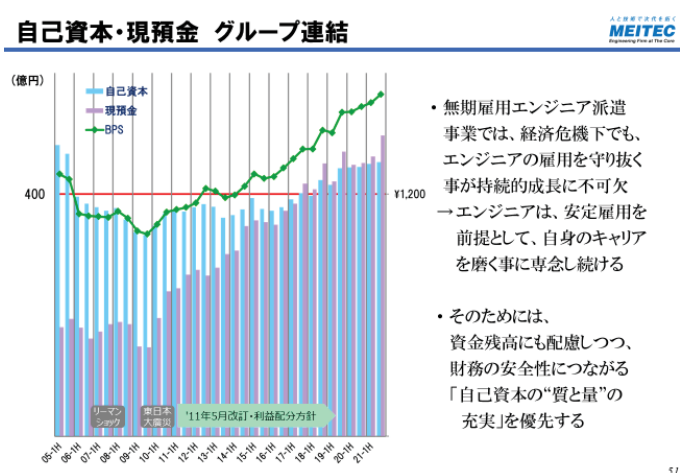
# 参考:当年度1Q中の主要な質問

1. 幅広いステークホルダーを犠牲にすることなく、株主価値の創造という考えに立ち、株主還元を加速すべきではないか。
2. 好調な業績が続いているのだから、利益配分方針を見直すべきではないか。2009年度以降、日本や世界の経済が厳しい時期でも、キャッシュ・フローの安定的な創出を実証したのだから、株主利益を一時的に高めて、月商3か月分の正規水準に戻すべきではないか。キャッシュ・リターンは、自己株式の大きな買い戻し・特別配当、のどちらも手段は問わない。
3. 歴史的に見ても、買収による成長は戦略の一部を形成していない。今後の成長戦略を想定しても、自己株式を保有するメリットが薄れているので、自己株式の保有上限を現行の5%から引き下げるべきではないか。この引き下げで株価上昇の可能性はある。

# 参考:当年度1Q中の主要な質問への回答1/3



今後も、ROE = 資本コスト + エクイティ・スプレッドの各水準を注視しながら、自己資本の質と量、現預金の活用、利益の持続的伸長、を適切にマネジメントして参ります。



1. 左図の「5つの価値」は、それぞれ同じ距離になるように、長きに渡り、細かく気を配りながらマネジメントしています。5つの価値のうち、一部だけを優遇する偏った執行は、持続的成長を著しく阻害するものと考えます。こうした考えや「エンジニア価値を起点的に」「経済危機下でも、エンジニアの雇用を守り抜く事が持続的成長に不可欠」などの意志について、多くの投資家から対話を通じて理解が得られており、永く大切にするように、と要望されています。よって、株主価値だけを優遇する執行は採択いたしません。

# 参考: 当年度1Q中の主要な質問への回答2/3

## 利益配分に関する基本方針



✓ 新中期計画の利益配分は、資本と資金の質と量の充実度を踏まえ、既定方針に従う

2018年11月改定  
2017年5月改定  
2011年5月改定  
利益配分方針

1. 自己資本の“質と量”が充実していること
2. 資金残高が事業運営上の必要資金\*を上回っていること  
(\*連結売上高の月商3ヶ月分)

**総還元性向：100%以内を原則**

**配当**

業績連動型配当：連結当期純利益の50%以上

最低限の配当：連結株主資本配当率(DOE)5%

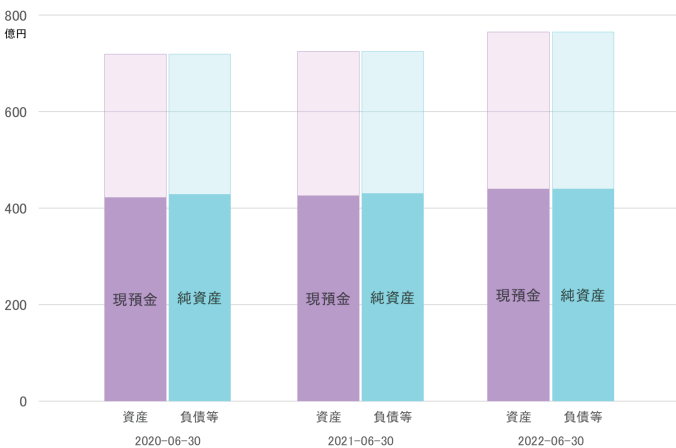
**自己株式の取得・保有・消却**

取得：総還元性向と配当性向の水準を勘案して適宜実施

保有：発行済総数の5%を上限

消却：上限超を当期末までに消却

✓ 自己株式は、経営計画の目標達成等に向けて、今後の成長戦略の実行と成長に伴うリスクに対処していく機動的な財務政策を可能とするために保有



2. 利益配分方針についても、多くの投資家から、対話を通じて理解が得られている、と認識している為、見直す必要は無い、と考えます。

まず、年度末・3月末は、業績に連動する賞与・税金・配当などは未払いの為、現預金残高が多く残ります。よって、実態把握は、左図の賞与支給などを終えた第1四半期末・6月末の比較などが適切であり、財務規律が堅持されている事をご理解ください。

次に、利益配分方針で明示している通り、第1に「自己資本の質と量の充実」を掲げ、「現預金残高の水準」は第2、です。この優先順位を変更する事、現預金残高だけに焦点を当てて一時的に高額なキャッシュ・リターンを行う事、足元で不確実性が増している最中にキャッシュ・フローを超える還元へ方針を変更する事、いずれも、前述1.の回答と同じで一部優遇の不適、持続的成長を著しく阻害するものと考えます。

よって、利益配分方針の変更は採択いたしません。

# 参考: 当年度1Q中の主要な質問への回答3/3

## 利益配分に関する基本方針



✓ 新中期計画の利益配分は、資本と資金の質と量の充実度を踏まえ、既定方針に従う

2018年11月改定  
2017年5月改定  
2011年5月改定  
利益配分方針

1. 自己資本の“質と量”が充実していること
2. 資金残高が事業運営上の必要資金\*を上回っていること  
(\*連結売上高の月商3ヶ月分)

**総還元性向：100%以内を原則**

**配当**

業績連動型配当：連結当期純利益の50%以上

最低限の配当：連結株主資本配当率(DOE)5%

**自己株式の取得・保有・消却**

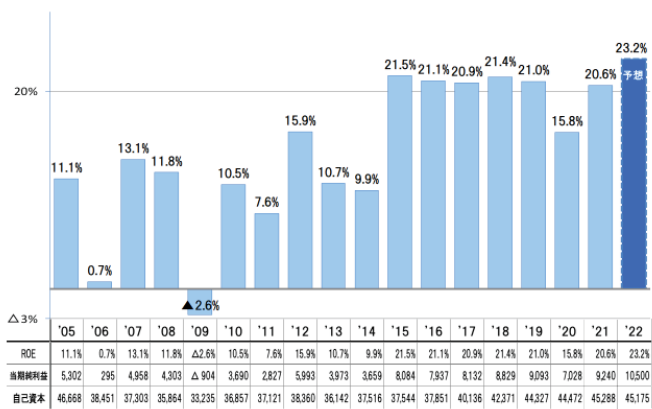
取得：総還元性向と配当性向の水準を勘案して適宜実施

保有：発行済総数の5%を上限

消却：上限超を当期末までに消却

✓ 自己株式は、経営計画の目標達成等に向けて、今後の成長戦略の実行と成長に伴うリスクに対処していく機動的な財務政策を可能とするために保有

## 連結自己資本当期純利益率: ROE



3. 自己株式の保有方針は、投資家との対話で、希薄化などを強く懸念する指摘は受けていません。

また、保有ゼロへの方針変更は機動的な施策の選択肢の消失で、成長の機会が失われる可能性もあります。

これまでも、ほぼ毎年、保有上限を超える自己株式を方針通りに消却して、規律を守り続けています。

なお、ご指摘の通り、買収の実績が少ないですが、買収という手段を目的化する事、株主利益の一時的な上昇に止まるような執行、は不適と考えます。

現時点で、自己株式の保有方針は著しく不合理との認識が無い為、方針の変更は採択いたしません。



人と技術で次代を拓く

**MEITEC**

*Engineering Firm at The Core*